

テーマ	「移動する」食の未来－過去の知見を活かした時代に寄り添う移動販売の提案		
連携企業	(株)リンガーハット		
指導教員	鎌谷 かおる	カマタニ カオル	
メンバー	立石 綾	タテイシ リョウ	
	信定 昌樹	ノブサダ マサキ	
	長谷川 千尋	ハセガワ チヒロ	発表者
	三浦 加帆	ミウラ カホ	発表者
	森川 夏光	モリカワ ナツミ	
	三島 純菜	ミシマ ジュンナ	
	大徳 萌々子	ダイトク モモコ	

日本フードサービス協会研究助成 研究成果報告書

1. 研究の概要
本研究は、移動販売（振売・屋台・キッチンカー）に焦点をあて、その歴史的変遷を食の流行や社会状況を踏まえつつ分析することで、日本における食の移動販売形態の未来を模索しようとするものである。 本研究の着想の背景は、本研究グループでのこれまでの活動において、江戸時代と現代の屋台についての比較分析をおこなった際に、移動販売の有り様が食の流行のみならず、当該期の社会が抱える課題やニーズを反映しているということを理解できたことにある。
2. 研究の目的
本研究では、①移動販売の江戸時代から現在まで約 400 年間の歴史的変遷を丁寧に整理し、②食の販売形態の変化が、社会のニーズや課題とどのように結びついてきたのかを段階的に把握し、③未来の社会が求める食の販売形態を提案することを目的としている。
3. 研究の方法
本研究の方法は、①従来から進めている江戸時代から現在までの移動販売に関する歴史資料の調査分析、②移動販売に関わる企業様（株式会社リンガーハット様）と連携し、現在の移動販売に関する調査、の 2 つの調査をおこない、目的を達成するための分析を試みる。
4. 研究成果
（本研究の成果） 本研究では、「移動販売」に着目し、長い歴史のそれぞれの時代において、どのような移動販売が存在し、いかなる社会背景や時代のニーズに応えてきたのかを研究した。またそれと同時に、株式会社リンガーハット様との連携を通じて、近年における移動販売の特質や課題、社会における役割について検討した。その結果、未来において社会に必要とされる移動販売のあり方について、展望することが可能となり、未来に寄り添う「移動販売」のあり方を提案することができた。 （本研究から得たこと） 本研究によって、参加学生は以下の 3 点の力を身につけることができた。 ① <u>現代社会の課題を歴史的な観点を踏まえて考える力</u> 本研究では、コロナ禍によって、特に注目されるようになった、フードデリバリー市場の成長を踏まえて、「食を運ぶ」ことが社会においてどのような役割を果たすのかについて検討した。これらの研究を通じて、現代社会の課題や問題を歴史的な観点を踏まえて考える力を培った。 ② <u>1 つの研究対象をインテンシブに分析することの意味／意義を理解する力</u> 本研究では、「移動販売」に着目し、社会における存在意義を徹底して長期的なスパ

ンで研究をした。これらの学びを通じて、1つの研究対象に拘って徹底的に検討する意義を考えることができた。

③ 食に関する実践的な学びを通じて、見えてきた課題に取り組む力

株式会社リンガーハット様との連携により、移動販売の体験をすることができた。実践的な学びの機会は、大学内では得られない機会であり貴重な体験を通じて、課題を発見することにつながった。

(研究成果発信)

本研究の成果について、以下の発表をおこなった。

① 学内向け成果発表

「『移動する』食の未来―過去の知見を活かした時代に寄り添う移動販売の提案」成果発表展示

日時：2022年2月1日（火）～3日（木）9時～17時

場所：立命館大学BKCキャンパス アクロスウィング6F ライブラリーギャラリー

② 学会発表（スライドショーセッション）

「『食を運ぶ』を考える―時代に寄り添う移動販売の形態と変遷―」

立石綾、信定昌樹、長谷川千尋、三浦加帆、三島純菜、森川夏光、大徳萌々子、田上祐也、鎌谷かおる

日時：2月13日（日）

場所：和食文化学会第4回研究大会（zoom開催）

5. 資金使途

移動販売に関する調査旅費

滋賀県草津市→長崎県長崎市・諫早市（学生8名／教員1名）

「移動する」食の未来 —過去の知見を活かした時代に寄り添う移動販売の提案—

研究メンバー：立石綾,信定昌樹,長谷川千尋,三浦加帆,三島純菜,森川夏光（4回生）
大徳萌々子,田上祐也（3回生）指導教員：鎌谷かおる

研究の目的と方法

本研究の目的は、①移動販売の江戸時代から現在まで約400年間の歴史的変遷を丁寧に整理し、②食の販売形態の変化が、社会のニーズや課題とどのように結びついてきたのかを段階的に把握し、③未来の社会が求める食の販売形態を提案すること。

従来から進めている江戸時代から現在までの移動販売に関する歴史資料の調査と、移動販売に関わる企業様（株式会社リンガーハット様）と連携し、現在の移動販売に関する調査をおこなう。これら2つの調査を合わせることで、上記の研究課題について解明することを目指す。

調査

- ①移動販売の歴史的変遷についての調査
→歴史資料（絵図／古写真／新聞）の調査・収集・分析
- ②食の販売形態の変化と社会のニーズや課題との結びつきに関する調査
→キッチンカーの調査
※株式会社リンガーハット様のご協力のもと、調査を実施（キッチンカーの社会的役割／キッチンカーの課題／実店舗との比較 等）

成果の発信

1、学内向け成果発表

「『移動する』食の未来—過去の知見を活かした時代に寄り添う移動販売の提案」成果発表展示

日時：2022年2月1日（火）～3日（木）9時～17時

場所：立命館大学BKCキャンパス アクロスウィング6Fライブラリーギャラリー

2、学会発表（スライドショーセッション）

「『食を運ぶ』を考える—時代に寄り添う移動販売の形態と変遷—」

立石綾、信定昌樹、長谷川千尋、三浦加帆、三島純菜、森川夏光、大徳萌々子、田上祐也、鎌谷かおる

日時：2月13日（日）

場所：和食文化学会第4回研究大会（zoom開催）

JF × 立命館大学 研究助成成果報告会 発表

2022年1月28日(金) (Zoom開催)

「移動する」食の未来 —過去の知見を活かした 時代に寄り添う移動販売の提案—

連携企業 株式会社リンガーハット様

立石綾,信定昌樹,長谷川千尋,三浦加帆,

三島純菜,森川夏光（4回生）

大徳萌々子,田上祐也（3回生）

指導教員：鎌谷かおる

目次



はじめに ー本プロジェクトの目的ー

1, 移動販売の歴史的変遷

2, 株式会社リンガーハット様 調査

おわりに

これまでの研究と今後の活動計画

「移動する」食の未来ー過去の知見を活かした時代に寄り添う移動販売の提案



目的と調査方法

目的

各時代の食を取り巻く状況に適応しながら変化する移動販売



社会状況を踏まえつつ、歴史的史料と現在の移動販売を調査することによって、日本における食の販売形態の未来を模索

具体的な調査方法

- ①江戸時代から現在まで約400年間に及ぶ移動販売の歴史的変遷を整理
- ②食の販売形態の変化が、社会のニーズや課題とどのように結びついてきたのかを段階的に把握

①移動販売の歴史的変遷 ＜振売・屋台・キッチンカー＞



▶調査方法

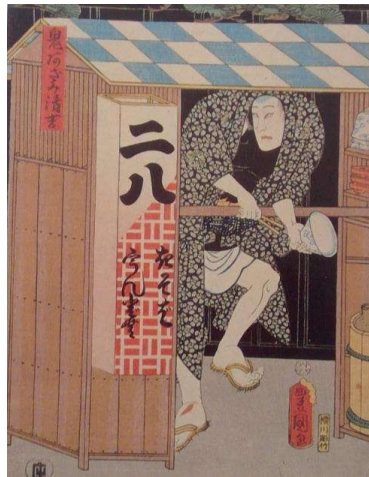
- (1) 絵図からみる移動販売（江戸時代）
- (2) 古写真からみる移動販売（大正～昭和）
- (3) 新聞からみる移動販売（昭和～現在）

①絵図からみる移動販売（江戸時代）



「団子」

東都名所高輪二十六夜待遊興之図(部分)
歌川広重 作
江戸時代・1841~42頃
『江戸開府400年・開館10周年記念
大江戸八百町展』より引用



「そば」

鬼あざみ清吉 二八そば(部分)
歌川豊国（3代） 作
江戸時代・1807~64頃
『ヴィジュアル百科 江戸事情
第一巻生活編』より引用



「おしるこ」

東都名所高輪二十六夜待遊興之図(部分)
歌川広重 作
江戸時代・1841~42頃
『江戸開府400年・開館10周年記念
大江戸八百町展』より引用

①絵図からみる移動販売（江戸時代）



「茶めし・あんかけとうふ」

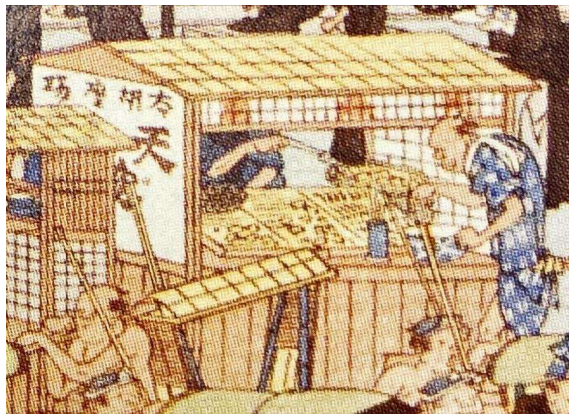
浄瑠璃町繁花の圖（部分）
廣重戯筆 作
1852年
国立国会図書館デジタルコレクション



「瀬田前かばやき(ウナギ)」

浄瑠璃町繁花の圖（部分）
廣重戯筆 作
1852年
国立国会図書館デジタルコレクション

①絵図からみる移動販売（江戸時代）



「天ぷら」

東都名所高輪二十六夜 待遊興之図(部分)
歌川広重 作
江戸時代・1841~42頃
『江戸開府400年・開館10周年記念
大江戸八百町展』より引用



「寿司」

東都名所高輪二十六夜 待遊興之図(部分)
歌川広重 作
江戸時代・1841~42頃
『江戸開府400年・開館10周年記念
大江戸八百町展』より引用

②古写真からみる移動販売（大正～昭和）



転載不可のため、提出資料には掲載なし

転載不可のため、提出資料には掲載なし

「カツレツ、シウマイなど」

読売新聞
1918年3月24日発行

「焼き豚」

読売新聞
1928年6月17日発行

②古写真からみる移動販売（大正～昭和）



転載不可のため、提出資料には掲載なし



「おでん」

読売新聞
1936年10月22日 発行

「闇市」

朝日新聞デジタルより
<http://www.asahi.com/special/sengo/visual/page7.html>
『映像と写真で振り返る戦後70年』

③新聞からみる移動販売（昭和～現在）



▶1950～1960年代（キッチンカーの誕生時期）



「道端で料理講習 出勤すでに一千回越す」大阪府立食生活相談所では、全国にさがけて「キッチン・カー」を盛んに町や村で活躍させ、油脂と人造バター普及の指導に当たっており、農村では特に人気を呼んでいる。この報告を聞いた東京の食料庁では「来年度予算で、ぜひ東京にもキッチン・カーをつくりたい」と、準備を進めている。

（1952年7月28日 東京 夕刊 朝日新聞）より
「道端で料理講習 出勤すでに一千回越す」
<http://database.asahi.com/library2/smendb/d-image-frameset-main.php> 朝日新聞デジタルより

③新聞からみる移動販売（昭和～現在）



▶バブル時代

・「京王百貨店のお歳暮では中華料理の出張料理が目玉商品である。しかし5人前10万円と非常に高価な価格であることに加え、キッチンカーを駐車できる広さの駐車場を保有している必要がある。」

（1989年10月28日 夕刊 朝日新聞 より）

<http://database.asahi.com/library2/main/top.php> 朝日新聞デジタルより

・「北海道苫小牧市にあるにある1泊100万円という価格の高級コテージでは、食事が必要な場合は、レストランからキッチンカーで運ばれる。」

（1990年8月1日 夕刊 朝日新聞 より）

<http://database.asahi.com/library2/main/top.php> 朝日新聞デジタルより

③新聞からみる移動販売（昭和～現在）



▶1995年以降

・「**阪神淡路大震災**の反省から消防防災課がトイレカー、キッチンカー、移動救護車を整備する方針に決まった。」

（1995年10月21日 毎日新聞 地方版/栃木 より）

・「日清食品は**東日本大震災の被災地**に向けカップヌードルなどを緊急無償提供を行うと発表した。また同時に給湯器付きのキッチンカー7台も派遣する。」

（2011年3月14日 毎日新聞 東京 朝刊 より）

・「『キッチンカーグルメ選手権』が10月6日に埼玉スタジアム（さいたま市緑区）北広場で開催される。近年人気を集めているキッチンカーが約40台集まり、それぞれ自慢の1品のみを持ち寄る。」

（2018年9月7日 毎日新聞 地方版/埼玉 より）

②食の販売形態の変化と 社会のニーズや課題との結びつき



株式会社リンガーハット様のご協力のもと調査

- ・ 2022年11月27日~28日実施
- ・ キッチンカー：トランスコスモススタジアム
(長崎県諫早市宇都町27-1)
- ・ 店舗：長崎出島店(長崎県長崎市出島町1-5)

▶ リンガー号の概要

- ・ 災害時の炊き出しを目的に
開発(現在3台設置)
→東日本大震災(2011)や
関東・東北豪雨(2015)、
熊本地震(2016)などで出動
- ・ CSR(企業の社会的責任)の一環
- ・ 平時はサッカーの試合や
イベントに際して、出店も
している



▶キッチンカー調査



- 商品は、
ちゃんぽん、皿うどん、おでん、
ミルクセーキ
- ちゃんぽんと皿うどんは、注文が入るごとに車内で調理
- 車内での調理は三人のスタッフが専任

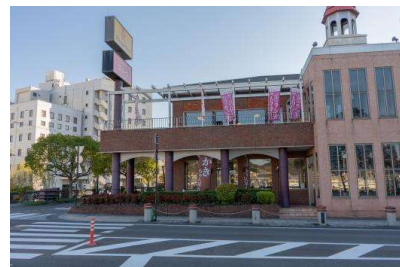
▷難点：

- 水の使用量が限られる
- 残飯処理
- ガソリン代

▶キッチンカーでのちゃんぽん・皿うどん製作



▶店舗調査 @長崎出島店



完成！！

▶明らかにできたこと

- 店舗での調理手順を踏襲しつつ、キッチンカーにおける制約を克服する工夫がなされているように見受けられた

⇒「誰もが、店舗と変わらない品質の料理を作り提供できる」

ことを重視してオペレーションが組まれていた

- 残飯処理や水の使用量の制限、ガソリン代など、キッチンカー特有の課題

⇒いかに需要と供給を均衡にするかが鍵となる

- 店舗づくりにおいては、外観や内装、メニューや食材などを見直したことにより、客層における女性比率が上がった

(男女比率5:5)

⇒キッチンカーの場合は、ターゲットとする客層に**アプローチするための要素**が限られる

おわりに

- 近年、移動販売は単に食を提供するだけでなく、緊急時に食の供給を助けるという役割も担ってきた

現代における移動販売に求められる形とは

移動販売の課題

味、調理方法、
調理時間、材料の保管・
運搬、販売商品の制限など



食を取り巻く社会

流行、食生活、
メディア、政治・政策



過疎化・高齢化・コロナ禍という社会課題と自然環境
に適応する新たな移動形態の形成に繋がる

謝辞

本研究は日本フードサービス協会研究助成の成果の一部です。

加えて、ご多忙にも関わらず、快く調査にご協力頂いた株式会社リンガーハットの田中 晃造様、須田 京介様、三宅 久美子様に感謝申し上げます。

なお、本文中に引用掲載している画像や資料は、各機関により使用ルールがございますので、無断転載・転用はお控えいただきますよう、お願い致します。